

冬でも緑色の樹木に注目



秋から冬にかけて、紅葉を目にする機会が多くなりますね。その鮮やかさには目を奪われます。

照葉樹林都市・綾町にも、紅葉し落葉する樹木が無いわけではありませぬ。しかし、多くは冬でも緑色の葉を付けている樹木、つまり常緑樹です。

樹木は、生存・生長するためのエネルギーを光合成によって効率的に生産できるよう、環境に適応した葉の形（広葉、針葉など）や寿命（常緑、落葉など）

樹木は冬でも葉を付けることで光合成を行っています。

植物は、光合成により生長に必要な栄養分を作っていますが、葉は光合成が盛んなほど早く老化していきます。広葉樹の場合、葉が老化したうえに温度や水分条件が悪くなると養分が生産できなくなり、落葉することになります。つまり、落葉樹は温度条件の悪い冬に葉を落として休眠状態に入り、翌年の若葉のためにエネルギーを温

を決めていると言われているとされます。綾町は標高の高い場所であれば最低気温が氷点下になる日が少なく、雪が降ることもほとんどないため、多くの

存しているというわけですね。

葉を付けること・落とすことは、それぞれの樹木が環境に適応して効率よく成長し、生き残っていくための戦略と言えるでしょう。緑色の葉を付けている私たちのまちの木々。よく見るとそれぞれの「いのち」を感じることが出来るかもしれませぬよ。

綾ユネスコエコパークセンターでは、樹木の写真や標本を展示しています。また、照葉大吊橋の遊歩道などには、樹木の名前や特徴などが書かれたプレートが設置されています。ぜひご利用ください。

■綾ユネスコエコパークセンター

☎77-3482

※年末年始は12月29日（土）～1月3日（木）に休館します

column

アオサギ

アオサギと呼ぶのは日本くらいで、海外でよく使われる学名・英名などでは「灰色のサギ」と呼ばれています。白でも黒でもない中間的な淡い色をしている様子を「アオ」と呼んだ、いかにも日本的な名前がつけられた鳥です。

日本で繁殖するサギの中では最も大きい種類で、春から初夏になると数十から数百羽が集まって子育てをする集団繁殖地（コロニー）を作ります。一夫一妻制で、毎年同じ夫婦で同じ巣を使うことが多いといわれています。

主なエサは魚で、子育てのため遠い時はコロニーから数10kmも離れた場所までエサを取りに飛び回る健気な一面もあるのです。

